

5. 今月のピックアップ「チャノホソガについて」

1. どんな虫？

茶の重要害虫のひとつで、製茶品質を低下させます。成虫は体長 4～5mm 程度の微小な蛾です(図 1)。幼虫は茶の新芽を加害し、三角形の巻葉(図 2 右)をつくるので「サンカクハマキ」とも呼ばれます。

2. 生態と被害

年間 5 世代～6 世代発生します。蛹で越冬し、3 月中旬頃から 4 月上旬より羽化が始まります。高温には弱く、発育停止温度は 30℃です。

孵化幼虫は新芽裏から潜行、食害します(図 2 左)。3 齢幼虫になると分散し、葉を縁から二つに折り曲げ、巻葉をつくり中に入って食害します(図 2 中)。巻葉の混入率 2%以上(重量割合。摘採葉 100 芽に対して巻葉 4.1 枚以上に相当)になると、香気、水色、滋味などの製茶品質が低下します。三角巻葉が発生するのは 0.9 葉期までに産卵された場合です。

3. 防除のポイント

防除適期は、孵化直後の潜葉期(1～2 齢幼虫期)です。若齢幼虫を対象に葉裏に薬剤が十分かかるように防除しましょう。

新芽に産卵しますので、新芽がないと成虫の飛来が多くても防除の必要がありません(図 3)。病虫害防除所のホームページ(<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>)に、農業研究所茶業研究室(亀山市)におけるフェロモントラップ誘殺状況を掲載していますので参考にして下さい。

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避けましょう。

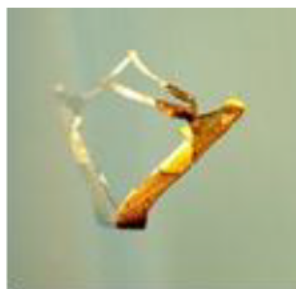


図 1 チャノホソガ成虫
(農業研究所茶業研究室原図)



図 2 チャノホソガ幼虫による潜葉(左:2 齢)・巻葉(中:3 齢)・三角巻葉(右:矢印)
(農業研究所茶業研究室原図)

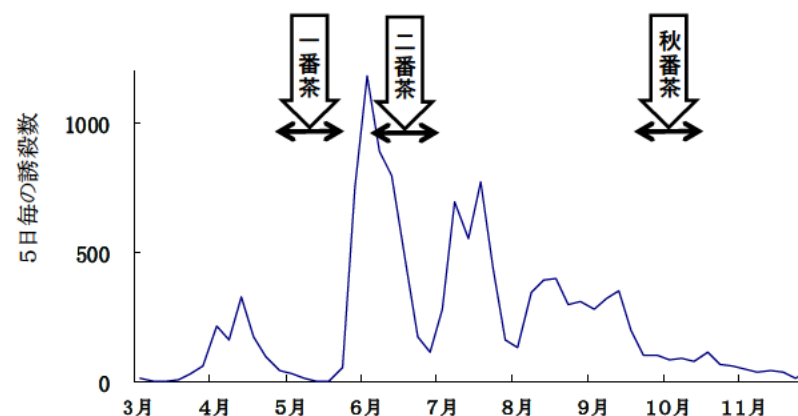


図 3 県予察圃(亀山市 農業研究所茶業研究室)における
チャノホソガ成虫のフェロモントラップによる平年発生消長